

Pick up!

## 輝く男性の家事・子育て体験記

～育児休業を振り返って～

会社員 T・K

私は、子どもが生後6か月になった2015年4月から半年間、妻と入れ替わりで育児休業を取得しました。

育休を取得するにあたっては、私の勤める会社ではこれまで男性の育休取得経験がなかったため、相談相手がいないことは不安でした。また、会社の仲間になるべく迷惑をかけまいと、仕事を前倒しで進めたりもしていました。

育休がスタートしてからは、生後6か月の子どもはまだ授乳が必要だったので、毎日妻の職場へ連れて行き授乳させていました。そのあとは、子どもと一緒にスーパーへ夕飯の材料を買い物に行ったりしていたんですが、育休取得当初の私は、平日の昼間に幼い赤ん坊と二人で買い物をしていることに対する周りの目がとても気になりました。自意識過剰かもしれませんが、珍しいものを見るような目で見られているような気がしました。しかし、次第に慣れてくると、自分が勝手にそう思っていただけだと気づき、周りの目を気にすることもなくなりましたけどね。

子育てをしていると、「ママ友」とか「育児サークル」なんて言葉を聞くのですが、男性の私には無縁で、孤独な時もあったように思います。やはり育児の現場は女性中心であるのが現状です。仮に、男性の私が育児サークルに参加したら、他のママも気を使われますから。女性しかいない空間であれば、そのまま授乳したりもできるでしょうが、男性がいるとそうはいかないですもんね。月齢の近い赤ちゃんのいるお隣の奥さんが毎日のように育児サークルへ出かけているのを見ていたので、男性向けの育児サークルが無いことを残念に感じました。当時、子どもはまだ立つこともできない月齢でしたので、外で一緒に遊ぶということもできず、ベビーカーに乗せて子どもと近所を散歩する日が多かったと思います。

ここまで悲観的なことばかり書いているように思われるかもしれませんが、現実を知ってもらいたいという思いから、あえて書いています。育休は制度として男性も取りやすくはなっただと思いますが、取得した男性を支援するシステムはまだまだのように思います。今は男性に取得させること自体が第一になっていますが、今後は取得後の支援の充実が必要になってくるのではないのでしょうか。

育休中に子どもと過ごした半年間はなにものにも代えがたい贅沢な時間だったと感じています。世の中の父親の多くが見ることができないであろう子どもの「初めて」の瞬間をたくさん見ることができました。一日一日の成長を目と肌で感じることができ、徐々に育児に嵌まっていく自分がいましたね。仕事に復帰した今でも、健診や予



防接種の際は看護休暇を取って、必ず一緒に行くようにしています。また、仕事が休みの日に子どものイベントがあれば、妻抜きでも行ったりします。これは、育休中にスーパーに通って周りの目を気にすることがなくなったおかげかもしれません（笑）。そして、第二子ができたら、また育休をとりたいと思っています。

育休を取得しても自分に育児ができるのかと、不安に思っている男性方もいらっしゃるかもしれません。出産を終えたばかりの奥様はかなり体力を消耗しています。さらに、そこに昼夜問わずの授乳が待っています。授乳、おむつ替え、寝かせつけをしていたらあっという間に3時間が経ち、次の授乳タイムが来ると

いう繰り返しです。奥様を少しでも休ませてあげる為に、家事・買い物をするだけでも良いと思うので、数日だけでも育休を取得してみたいかでしょうか？かけがえのない素晴らしい時間が過ごせるかもしれませんよ。